

「ぼ～れば～れ」通巻 417 号所載

40 年間も介護したのに

三郷のつどい 2015 年 2 月 14 日（土）13：30～

三郷市文化会館 視聴覚室 参加者 21 名

クリニックふれあい早稲田の大場先生と、みさと協立病院の矢花先生が参加されました。はじめに矢花先生から、「家にいるのに『家に帰る』と言うのは、様々な原因がある。身体の病気や薬の副作用でせん妄を起こしていないか、確かめることが必要で、その上で無理に止めず、トイレに誘うなど他のことに気持ちが向くようにするとよい」と話されました。

N さんは「夫がのどの手術をして声を失い、デイには行くけど、家では寝てばかりいるし、怒りっぽくなった。兄弟達が理解してくれないことがつらい」と話された。Y さんも「40 年間介護を続けてきたが、家を改築するために、兄弟に一時預ってほしいと頼んだら、断られた。今までやってきたことを否定された思いがした。でもここで話せたのでよかった」と言われました。O さんは、姑の介護を 25 年やって、今度は夫が幻覚があったり、姑に似た症状が出ているようで心配だ、大場先生の診察を受けたいと話されました。

○大場先生が専門書を発刊されました

大場・高杉共著の新刊書発刊

「ともに歩む、認知症医療とケア」(現代書林)

“町医者(かかりつけ医)として認知症医療の戦略的複合的展開を実践 20 数年の実践報告と今後のあるべき認知症医療とケアを提言”する啓蒙書です。